

# 札幌市の実情と 自転車施策について

札幌市まちづくり政策局総合交通計画部



札幌市の実情

## 冬期間の積雪

夏



冬



⇒積雪により、冬期間の自転車の利用は難しい。

札幌市の実情

## 自転車利用状況

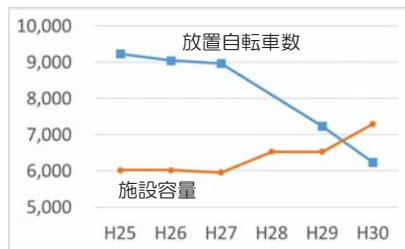


図 札幌市都心部の放置自転車数

都心部の路上駐輪台数は減少傾向にあるが、放置自転車は全国ワースト3位 (H29)。

札幌市の自転車施策

### 総合的な自転車対策の推進

- 都心部や郊外駅周辺で駐輪場を整備
- 施設容量を確保し、放置禁止区域へ

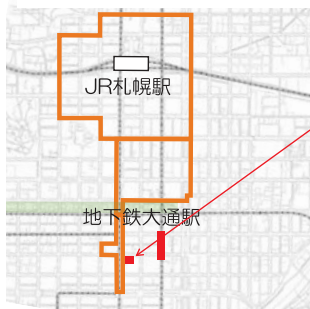


図 都心部の放置禁止区域 (オレンジ色)



図 南2西3南西地区再開発事業のイメージ  
再開発に合わせた駐輪場の確保

札幌市の実情

## 観光客の増加

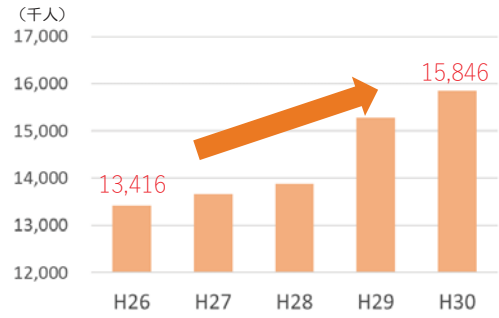


図 来札幌観光客の推移

札幌市の実情

## 冬期間の積雪

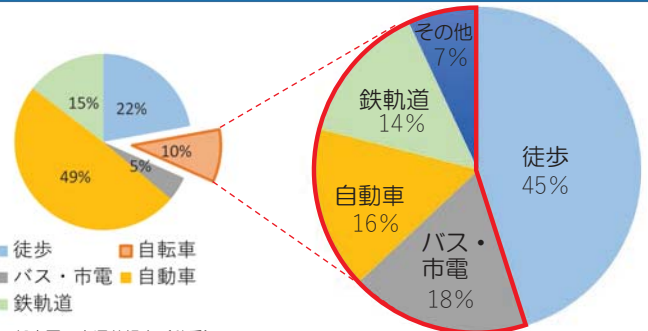


図 都市圏の交通分担率 (秋季)

図 自転車利用者の冬季の交通手段

冬期間は公共交通機関等に移行する人が多い。

札幌市の自転車施策

### 自転車走行空間の明確化



平成30年3月に「札幌市都心部 自転車通行位置の明確化の取り組み」を策定  
平成30年度より都心部で本格整備を開始

札幌市の自転車施策

### 総合的な自転車対策の推進

- 都心部や郊外駅周辺で駐輪場を整備
- 施設容量を確保し、放置禁止区域へ

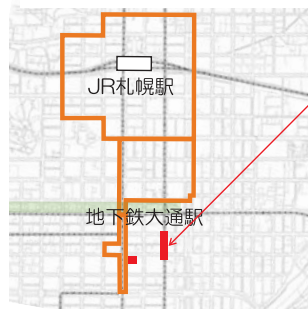


図 都心部の放置禁止区域 (オレンジ色)



図 西2丁目地下駐輪場のイメージ  
大規模駐輪場の整備



図 スケアードストレートの様子



図 さっぽろ自転車押し歩きキャンペーンの様子

- スケアードストリート等による学生への安全教育
- 都心部における押し歩きの啓発等

# ポロクルを通じたまちづくり ～これまでとこれから～



認定NPO法人ポロクル 運営委員 澤 充隆

## キックオフ時のコンセプト



### 新しい移動システム＝レンタサイクルシステム

自転車利用を進めるには、道路インフラの整備とムーブメントとなるための啓発活動が必要であり、これまで行政を中心に進められてきました。  
でも、これだけで本当に多くの自転車が利用されるようになるでしょうか？  
おそらく答えは「NO」です。  
そこでドーコンは、自転車利用を促進するためのシステムづくりが必要だと考えました。そうです。レンタサイクルシステムです。インフラ整備・啓発活動・システムの3つの歯車が揃うことで、環境にやさしく安全な21世紀の新しい交通イノベーションが起こるのではないかと考えたのです。



2

## ポロクルによる自転車まちづくり



左からドーコン平野社長・ポロクルスタッフ・エゾロックスタッフ・NTTドコモ山田社長(2010年当時)

4



## ポロクルクルー2014活動報告

## ポロクルの系譜



### 草創期としての「チーム自転車創業」(2008年度～2010年度)

- 【2008年度】株式会社ドーコン内の有志による「チーム自転車創業」が、新規事業としてのコミュニティサイクルの展開可能性について検討開始。有識者等による任意団体「北海道モビリティデザイン研究会」を発足させ、イベントを開催。
- 【2009年度】ドーコン新規事業として、サイクルポート・オペレーションシステムを開発。環境省の公募にて採択され、「コミュニティサイクル社会実験」を実施。
- 【2010年度】ドーコン内に「サイクルシェアリング推進室」を発足。NTTドコモと共同で、決済システムを加えた社会実験を実施し、この結果を受け、ドーコンはサイクルシェアリングを実現したソーシャルビジネス実証実験として、子会社の設立を決定。

株式会社ドーコン

### ソーシャルビジネス実証実験としての「DMD」(2011年度～2014年度)

- 【2011年度】4月、株式会社ドーコンモビリティデザイン(DMD)設立。サイクルシェアリング事業としての「ポロクル」および社会貢献活動をスタート。
- 【2014年度】ソーシャルビジネス実証実験としての3年間の実績評価結果から、株式会社による事業継続が困難であると判断。「ポロクル」は、社会貢献活動を主体としてサイクルシェアリング事業を実施するNPO法人が事業継続することを決定。

株式会社ドーコンモビリティデザイン

### 社会モデルとしての「NPO法人ポロクル」(2015年度～)

- 【2015年度】2014年11月に設立した「特定非営利活動法人ポロクル(NPO法人ポロクル)」によるサイクルシェアリング事業および社会活動事業をスタート。
- 【2016年度】9月、NPO法人ポロクルは、社会貢献活動実績等により高い公益性を持っていることが認められ、札幌市長より「認定NPO法人」の指定を受ける。
- 【2019年度】2か年に渡るNTTドコモとの共同運営の試行を開始

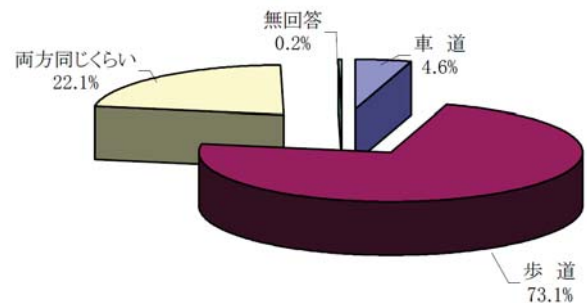
特定非営利活動法人ポロクル

1

## 活動の起点となった数字



あなたが歩道のある道路で自転車に乗るとき、主に車道と歩道のどちらを走りますか？  
(平成19年度 札幌市市政世論調査)



3

## ポロクルによる自転車まちづくり

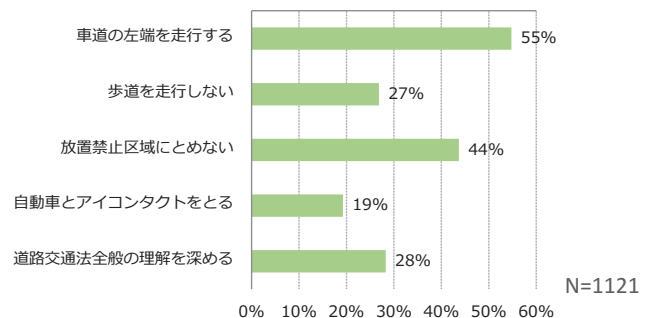


5

## ポロクルによる自転車まちづくり



自転車のルールやマナーで気をつけるようになったことはありますか？



2017年度ポロクルユーザーを対象としたアンケート調査：NPO法人ポロクル

7



【ボールゲーム】



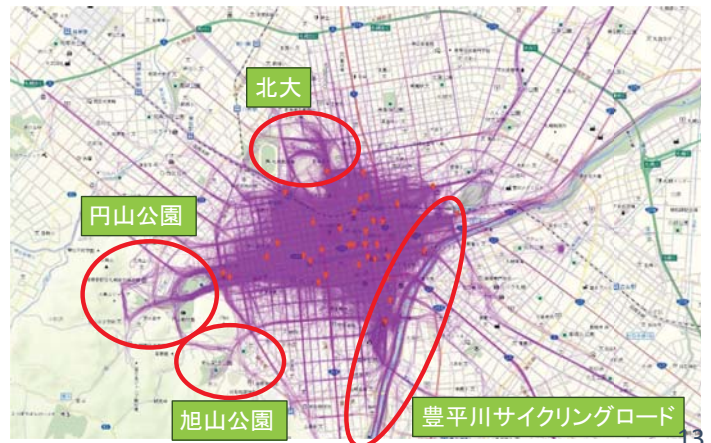
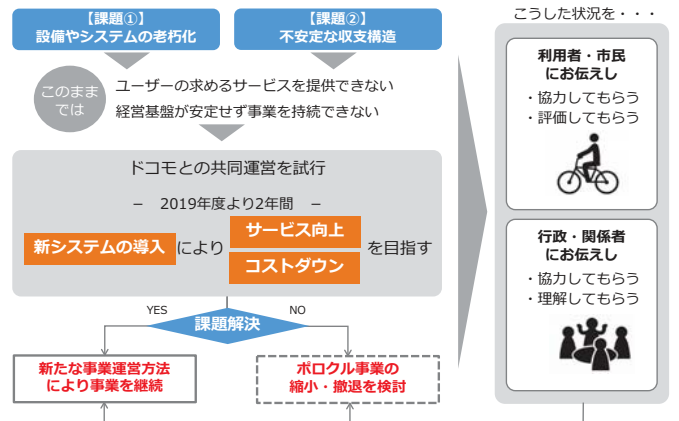
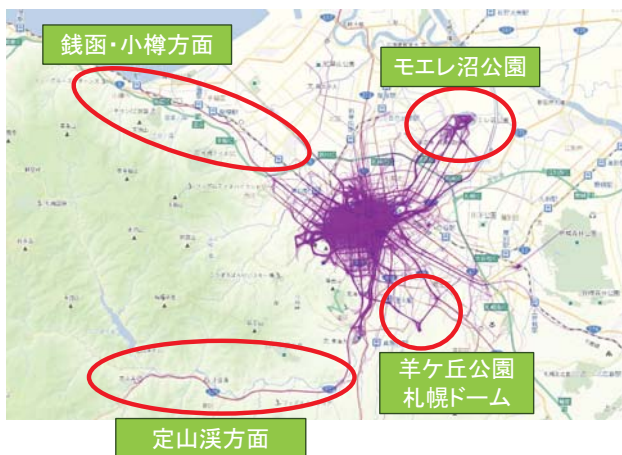
【シャボンスマッシュ】



【障害物ゲーム】



【クラシコース】



後半

行き方に選択肢をもっと！

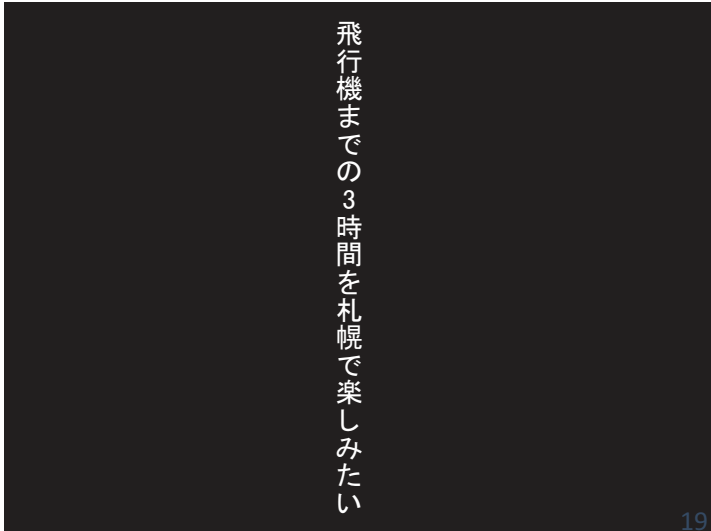
「mixway（ミクスウェイ）」ベータ版をリリース。  
国内初、シェアサイクルと公共交通の複合経路検索サービスの導入実験開始！



利用イメージ



例えば、北海学園大学から北大工学部へ行きたいときに、地下鉄東豊線に乗り、札幌駅からポロクルを使うと便利！



出発時刻

- ・出発時刻：10:00
- ・フライト時刻・空港：15:00新千歳空港

フライト時刻

新千歳空港





## 大通のまちづくり「まち・ひと・自転車」



自転車利用環境向上会議in北海道・札幌  
2019年8月29日(木)

札幌大通まちづくり株式会社  
取締役統括部長 服部彰治

### 1. まちの取り組み (1) 札幌都心交通研究会について

#### 3) 札幌都心交通研究会の取り組みの全体像

項目	目標	主な取組
歩行者	歩いて楽しい空間をつくる	来街交通モード毎の回遊行動・滞在時間・ 来街頻度・消費金額調査
公共交通	路線バスを安全・快適に利用できるようにする 公共交通でにぎわいをつくる	バスフェスタ開催等、にぎわいづくりや 利用促進等の取組
観光バス	道路から駐車車両を減らす 観光バスを安全・快適に利用できるようにする	社会実験等による、バス乗降所に関する ルールやバス待ち環境改善の検討
荷さばき	道路から荷さばき車両を減らす	エリア共同配送の社会実験等による、まちの 荷さばきシステム検討・試行
一般駐車	道路から駐車車両を減らす	駐車と回遊の関係性の把握調査、 カモンチケットを活用した隔地駐車場 システム、附置義務制度見直し検討
自転車	歩道から放置自転車を減らす 歩道を走行する自転車を減らす	駐輪調査、適正な駐輪へ向けた啓発・駐輪対策、 附置義務制度見直し検討 社会実験等を踏まえた自転車NW計画策定及び フォローアップ
建物	建て替えしやすい仕組みをつくる	附置義務制度見直し検討、建替エース把握 及び新たなシステムの検討
マネジメント	各施策の効果を高める	荷さばき・道路環境改善マネジメントの試行、 道路協力団体としての本格稼働

### 2. まちの挑戦 (1) 社会実験(「はしる」)の取組

#### 1) H27自転車通行空間+荷さばき対策(共同配送3日間)

**③実験の効果**

ヤマト運輸(株)が運営するストックポイントで約1,000個の荷物を取り扱った。

● 実験対象区間のピーク時における自転車の車道左側通行率は、実験前後で約2倍の40%前後に上昇。  
● また、停車車両台数はピーク時に半減。  
⇒ 自転車の車道通行の安全性向上を確認

**【自転車の左側通行率の変化】**

区間	実験前	実験中	実験後
北1条通(約400m)	20.8%	40.1%	39.5%
南4丁目(約200m)	17.8%	32.2%	32.2%

**【荷さばき等停車車両数の変化】**

区間	実験前	実験中	実験後
北1条通(約400m)	31台	16台 [48%減少]	16台
南4丁目(約200m)	13台	6台 [54%減少]	6台

※実験協力：札幌地区トラック協会ほか  
ストックポイント運営サポート：ヤマト運輸

### 2. まちの挑戦 (2) 研究会の取組(「とめる」)の取組

#### 2) 地域・行政と連携した調査(R1)

2021年の駐輪場有料化にむけ、有料化後も自転車利用者が利用しやすい環境を構築

例えは、  
駐輪場利用者店舗毎にサービスや特典を提供

サービスの内容は店舗毎に決めることが出来るため、サービス提供にむけた店舗の負担も少なく、オペレーションも簡易的に可能

**アンケート調査を実施**

アンケートで聞き取りたい意見

【目的】駐輪場利用料金無料化サービスを今後行うべきか判断するための情報を収集

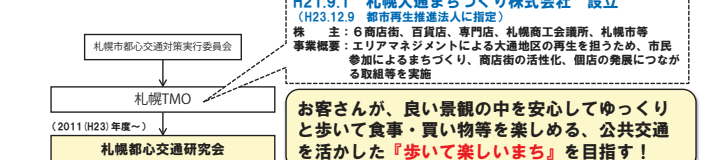
回答者多数  
「まち」の売り上げアップ  
「まち」の路上環境が改善

回答者少数  
「まち」の売り上げアップは見込めない  
路上環境の改善効果小

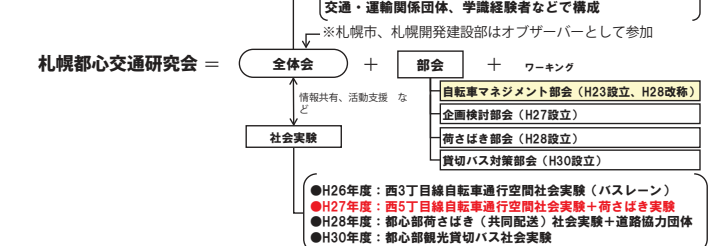
今後の方針について判断  
駐輪場無料化サービスの提供をするべき  
その他の対策を検討するべき

### 1. まちの取り組み (1) 札幌都心交通研究会について

#### 1) 札幌都心交通研究会の経緯



#### 2) 札幌都心交通研究会の位置づけ



### 2. まちの挑戦 (1) 社会実験(「はしる」)の取組

#### 1) H27自転車通行空間+荷さばき対策(共同配送3日間)

**①目的と背景**

札幌都心部において、安全・快適な自転車利用環境を創出するとともに、本格的な荷さばき車両対策を進め、「歩いて楽しいまち」を実現する。

**②実験の内容**

主体：札幌都心部自転車対策協議会  
期間・内容：  
①【自転車通行空間】市道西5丁目線の車道左側に大小の矢羽根を設置 H27.10.13(火)～10.31(土)の19日間  
②【共同配送】路外のストックポイント(荷物の一時保管場所)を活用し、複数の配送事業者が持ち込んで集約された荷物を、特定の配送事業者が台車等で配達 H27.10.29(木)～10.31(土)の3日間

対策前  
【現状の車道左側での荷さばき】  
・1台のトラックによる複数の荷受先への配送が長時間駐停車を助長。  
・結果、自転車の車道通行を阻害。

対策後  
【自転車通行空間確保】  
・矢羽根設置により、自転車通行空間が確保され、安全性が向上。  
【共同配送導入】  
・複数の事業者が持ち込んで集約された荷物を、特定の事業者が台車等で配達し、長時間駐停車が減少。

### 2. まちの挑戦 (2) 研究会の取組(「とめる」)の取組

#### 1) 地域・行政と連携した駐輪場整備・放置禁止区域指定

**【官民協働モデル事業駐輪場(五番街駐輪場)】**

平成28年4月上旬より供用開始

既存駐車場+上屋整備  
⇒2階:駐輪場(無料)

出典：札幌市自転車対策担当資料

**放置禁止区域図**

平成29年6月1日より指定

放置禁止区域  
TOW-AWAY ZONE  
駐輪場  
Bicycle Parking Lot(五番街駐輪場)

### 2. まちの挑戦 (2) 研究会の取組(「とめる」)の取組

#### 2) 地域・行政と連携した調査(R1)

地域・行政と連携し、札幌駅前通や五番街駐輪場において、自転車利用者に聞き取り調査を実施(R1.5.16(木)、R1.5.18(土))

アンケート回答者数

回答場所	平日	休日	合計
札幌駅前通	33	33	66
五番街駐輪場	48	43	91
合計	81	76	157

**調査結果**

札幌駅前通(放置禁止区域)

まちへの来訪目的

買物(短時間駐輪)  
通勤(長時間駐輪)

五番街駐輪場(札幌駅前通の近傍)

買物(短時間駐輪)  
通勤(長時間駐輪)

放置禁止区域拡大後、駐輪場有料化後の駐輪場利用意向

駐輪場を使う(47%)  
駐輪場を使わない(53%)

駐輪場(サービス)を使う(9%)  
駐輪場(サービス)を使わない(91%)

駐輪場無料化サービス等の施策を導入・提供したほうがよい

3) 地域・行政と連携した活動 (H30)

■中央警察署と連携し狸小路および駅前通の自転車利用者を対象に啓発活動を実施 (押し歩き・通行ルール遵守の呼びかけ・啓発チラシ配布)

■札幌駅前通・南1条通を歩行者天国として貸し切り、イベント(タウンピクニック)を実施。

【自転車ブースの様子】ランニングバイクやヘルメットデコレーションなどの企画を行っており、多くの子どもも参加するなど賑わいをみせていた

【啓発活動の様子】



【配布した啓発チラシ】



1) H28荷さばき対策の社会実験(エリア共同配送約5ヶ月間)

実験概要
○実験名称 道内各地域における共同配送による民間運送事業者への代替
○実験期間 平成28年10月7日(金)～平成29年2月28日(火)

長時間の路上荷さばきによる地域の課題

社会実験概要

道路パフォーマンスの向上



1) H28荷さばき対策の社会実験(エリア共同配送約5ヶ月間)

路上荷さばき車両の抑制や路上荷さばき時間が減少し、道路空間パフォーマンスが向上

○ストックポイントを活用した地下街共同配送に参加した事業者では、路上荷さばき時間が4.9分⇒3.9分に減少、○大規模商業施設内への共同配送では、路上での荷さばき時間が2.0分減少

ストックポイントを活用して地下街へ共同配送した際の路上での荷さばき時間の変化



共同配送による安全性・利便性・快適性の向上

○共同配送により歩行者の通行の安全性が確保されるかについてアンケート調査を実施したところ、回答者の約87%が「安全性が確保される」との回答を得た。

2) H30観光貸切バス対策の社会実験(約1ヶ月間)

②実証実験結果

○観光貸切バス専用路を、日平均62台の観光貸切バスが利用。隣接エリア箇所の路上における観光貸切バスの駐停車台数が約6割減少。これにより、観光貸切バス専用路を設置した周辺エリア内の歩道幅(17箇所)の約7割が解消

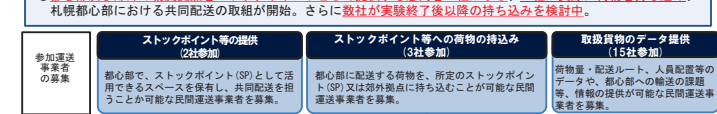
効果①: 路上駐停車の減少と旅行速度向上



後半

1) H28荷さばき対策の社会実験(エリア共同配送約5ヶ月間)

○都心部及び郊外の物流拠点をストックポイントとして提供する意向を2社が示し、3社が実際に荷物を持ち込み、札幌都心部における共同配送の取組が開始。さらに数社が実験終了後以降の持ち込みを検討中。



2) H30観光貸切バス対策の社会実験(約1ヶ月間)

①実証実験実施概要

○実験名称 道内各地域における共同配送による民間運送事業者への代替
○実験期間 平成30年10月26日(金)～平成30年12月3日(月)

【位置図】



【実証実験概要と目標】

①乗降所の設置とルール化
②観光貸切バス専用路の確保
③観光貸切バス専用路の確保

2) H30観光貸切バス対策の社会実験(約1ヶ月間)

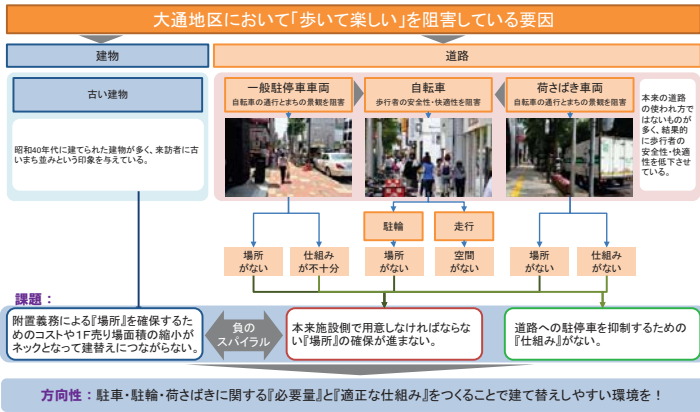
②実証実験結果

○既存商業施設内をバス待ち空間として活用することで、バス利用者の歩道上での待機がなくなり歩行空間を確保。バス待ち空間を設置した民間商業施設は、実証実験前と比較して、日平均の売上高で約1.1倍、客数で約1.2倍に増加

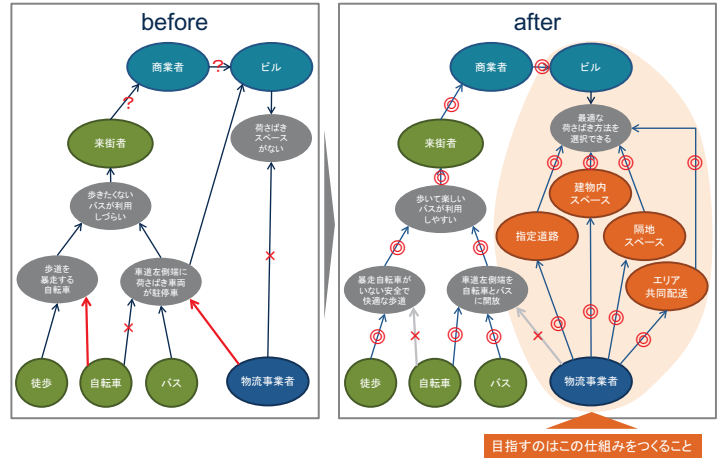
効果②: 歩行者の歩行空間の確保



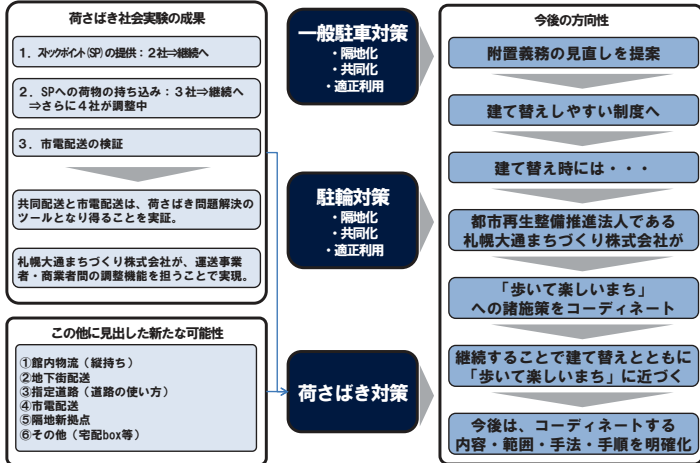
■ 建て替えしやすい仕組みをつくる



■ まちの交通課題を解決する仕組みのイメージ



■ 一般駐車・駐輪・荷さばきの各対策に関する今後の方向性

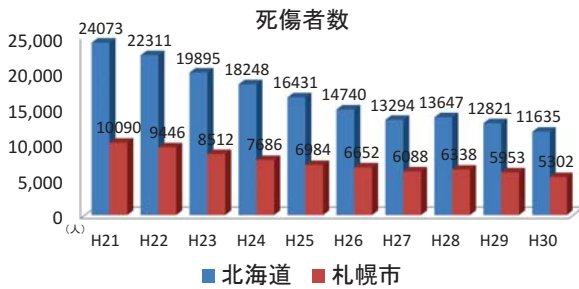




# 北海道の自転車事故の実態と諸対策について

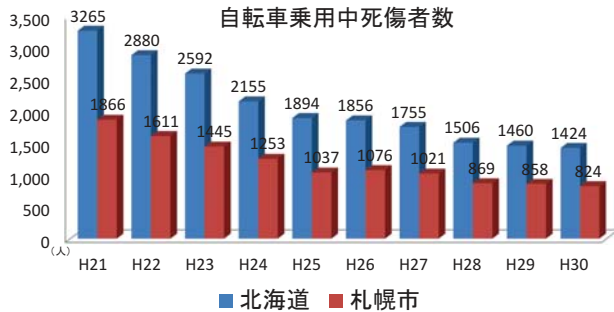
北海道警察本部交通部  
交通企画課 

## 1 交通死亡事故の発生状況について



平成30年中の交通死亡事故については、北海道・札幌ともに前年対比減少し、北海道は交通事故統計記録がある昭和25年以降最小となった。  
過去10年の交通事故死者数についても、北海道・札幌ともに減少傾向をたどっている。

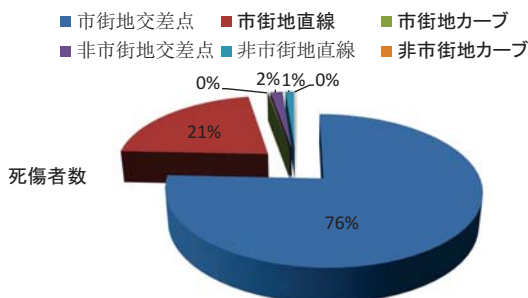
## 2 自転車乗用中の交通事故実態



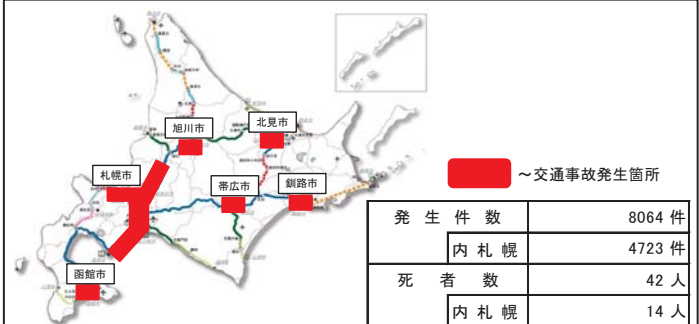
自転車乗用中の交通事故死傷者数については、過去10年間で、減少傾向をたどっている。札幌市については、全道の半数以上を占めており、札幌市における自転車事故抑止の重要性が見てとれる。

## 3 発生場所の分布状況

### 地形別死傷者状況 (平成30年中の自転車乗用中事故)



平成30年中の自転車乗車中の交通事故については、市街地交差点での発生が全体の約75%を占め、他の状況にくらべて圧倒的に高い。



北海道内における、過去5年の自転車乗用中の交通事故発生状況を地図上に示すと、札幌市内での発生が半数以上を占め、函館市、旭川市、帯広市など大規模都市での発生を加えると、約76%が大都市部で発生している。

## 4 自転車の指導取締り

自転車乗用中の事故発生状況に応じ、主に都市部において自転車の走行実態、時間帯などを分析した上で指導取締りを実施



- ◇ **イヤホンを使用しながらの運転**  
イヤホンを使用して走行する自転車運転者を公安委員会遵守事項で検挙
- ◇ **制動装置不良自転車**  
ブレーキ装置を備えていない自転車を運転していた者を検挙
- ◇ **歩道通行中の歩行者を妨害**  
歩行者の往来が頻繁な歩道上を一時停止することなく自転車で走行し、歩行者を立ち止まらせた運転者を検挙

## 5 自転車に関する安全啓発活動

### 高校生を対象とした自転車安全啓発



スクエアードストレイト教育技法

スタントマンが実際の交通事故を再現して、自転車事故の危険性を直視させる教育  
北海道内の高校生を対象として行っている  
◇ **平成30年全道19校実施**

### 児童向けの自転車安全啓発

① 

② 

③ 

- ①自転車専用コースを活用した乗車指導
- ②融雪期における青空教室
- ③自転車シミュレータを活用した乗車指導

### 関係機関・団体と協働した安全啓発

